

事項	飼料用えん麦の奨励品種「アムリⅡ」及び「ニューオールマイティ」の特性		
ねらい	飼料自給率向上の一環として、短期利用型飼料作物であるえん麦品種の選択幅拡大を図るため、市販品種について検討したところ、「アムリⅡ」及び「ニューオールマイティ」は、生育特性及び収量性ともに既存の奨励品種とほぼ同等と認められたことから、奨励品種として普及に移す。		
指導奨励内容	<p>1 来歴</p> <p>(1) 「アムリⅡ」：米国で育成されたOECD登録品種で、平成元年よりタキイ種苗（株）が販売している。</p> <p>(2) 「ニューオールマイティ」：米国で育成され、平成7年より雪印種苗（株）が販売している。</p> <p>2 特性</p> <p>(1) 発芽は、標準品種「前進」と比較して「アムリⅡ」はやや劣るが、「ニューオールマイティ」はほぼ同等である。</p> <p>(2) 「アムリⅡ」及び「ニューオールマイティ」の出穂期は「前進」と比較して1日程度早い。</p> <p>(3) 「アムリⅡ」及び「ニューオールマイティ」は倒伏がみられず、耐倒伏性は「前進」より勝る。</p> <p>(4) 「アムリⅡ」及び「ニューオールマイティ」の平均乾物収量は「前進」とほぼ同等である。</p>		
期待される効果	短期利用型の飼料作物として栽培することにより、飼料自給率向上に資する。		
普及上の注意事項	栽培管理は県の基準に従う。		
担当	青森県農林総合研究センター畜産試験場 草地飼料部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成17年度東北農業試験成績・計画概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 品種の生育特性と収量性

(平成15～17年 青森農林総研畜試)

品 種	年度	発芽良否 (9～1)	生育日数 (日)	草丈 (cm)	倒伏程度 (%)	生草収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	対前進比 (%)
アムリⅡ	15	6.7	57	99	0	3165	354	125
	16	7.7	60	108	0	4110	509	94
	17	6.3	61	106	0	3934	382	89
平均		6.9	59	104	0	3736	415	100
変動係数(%)						13.5	19.9	
ニューオールマイティ	15	6.3	55	88	0	2082	268	95
	16	7.7	60	106	0	3758	522	96
	17	7.7	61	110	0	3443	441	103
平均		7.2	59	101	0	3094	410	98
変動係数(%)						28.8	31.6	
前 進	15	7.0	55	89	0	2295	282	100
	16	7.7	63	127	10	4338	542	100
	17	7.0	61	123	0	4143	427	100
平均		7.2	60	113	3	3592	417	100
変動係数(%)						31.4	31.2	

(注) 1 発芽良否：9（極良）～1（極不良）とする評点法

2 生育日数：は種日から刈取日（出穂期）までの日数

(耕種条件)

項 目	内 容
1 は種期	平成15年5月7日、平成16年5月6日、平成17年5月11日
2 は種方法	散播
3 は種量	8 kg/10a
4 基肥	N-P ₂ O ₅ -K ₂ O : 7-10-7 kg/10a 堆肥 : 2,000 kg/10a
5 刈取期	出穂期